



MIKATA NEWS

タイトルの「MIKATA」とは、三方原の三方、利用者の皆様の味方、いろいろな角度からの見方の意味を含めました。
地域医療連携室より地域の皆様へ最新情報をお伝えします。

Feature

新任 院長補佐・部長のご紹介



2024年7月1日付けで、腎臓内科部長の松島医師が聖隷三方原病院院長補佐兼三方原ベテルホーム所長へ、
新腎臓内科部長は、杉浦医師が就任いたします。

医療機関の皆様との連携をさらに強化し、引き続き地域医療の充実に努めてまいります。

新任院長補佐



**院長補佐 兼
三方原ベテルホーム所長**
松島 秀樹 (マツシマ ヒデキ)
浜松医科大学 (1989年)
＜専門領域・認定医・専門医＞
腎臓内科
日本腎臓学会腎臓専門医／指導医
日本透析医学会専門医／指導医
日本内科学会認定医／指導医

近隣病院の皆様へのメッセージ

慢性腎臓病の病診連携では日頃より大変お世話になっております。重症化する前に有効な介入が出来るケースが増えてきています。対応を急がねばならない急速進行性腎炎（血尿が比較的強く、倦怠感や炎症反応を伴うことが多いです）、若年者の腎炎（感冒時の尿検査にて所見の悪化で気づかれることも多いです）は確実に治療につなげたいと思っています。腎臓病では食事等の生活習慣の見直しがとても重要と心掛け診療にあたっています。

新任部長



腎臓内科部長
杉浦 剛 (スギウラ タケシ)
浜松医科大学 (1997年)
＜専門領域・認定医・専門医＞
腎臓内科
日本腎臓学会専門医／指導医
日本透析医学会専門医／指導医

近隣病院の皆様へのメッセージ

腎臓病は糸球体腎炎、糖尿病や高血圧など生活習慣病、膠原病や血管炎など自己免疫疾患、薬剤性腎障害など、原因が多岐にわたり、初期症状が乏しい場合も多いと考えます。心血管疾患や脳血管疾患を合併する例も多く、腎臓のみでなく、他の疾患の病状も考慮して、患者様に適した診療を提供したいと考えています。

info

腎臓内科のご紹介



1. 腎生検による病理診断

糸球体疾患や間質性腎炎の診断は腎生検による病理組織が不可欠です。当科では適応がある症例に対して積極的に腎生検を実施して、病理診断に基づいた治療を心がけています。

2. 慢性腎臓病の診療 保存期から透析治療まで

慢性腎臓病は無症状の早期から透析治療を要する末期腎不全まで、長期的な視野からの診療を要します。適切な薬物療法をはじめ、蓄尿に基づいた栄養指導、透析療法の選択と準備、意志に基づいた透析非導入の合意など、基幹病院としての役割を果たしたいと考えます。

3. 電解質異常の診断と治療

電解質異常（血清のナトリウム、カリウム、カルシウム、リンなどの異常）は腎臓病のみならず、他臓器疾患や薬剤の影響でも起こる異常です。当科では広い視点から病態を評価し、適切な診断と治療が行えるように心がけています。

血尿や蛋白尿など検尿異常、腎機能低下、電解質異常など、腎臓病が疑われる、または、
患者様が腎臓病の心配をしているなど、お気軽にご紹介ください。

ご予約・お問い合わせ 地域医療連携室までご連絡ください

【連携室直通】0120-811-559 / 053-439-0001 【FAX番号】 053-439-0002

【受付時間】月～金：8時30分～19時00分 / 土：8時30分～13時00分 / 祝祭日は除く

